

第3 1回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和7年7月19日(土) 午前10時30分～12時00分
- 2 開催場所 東小金井駅開設記念会館・マロンホール
- 3 参加者 市長及び市民11名
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ (市政報告)
 - (3) 懇談(フリーテーマ)
 - (4) 閉会

5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	発明について	にぎわいづくりで言うと、ベンチの件です。人通りの多いところは、通る人数を数えるなどの調査をして、にぎわいの多いところにはベンチを設置すれば良いと思います。お休み処は、とても良い案です。 それから、小金井のにぎわいづくりも発明です。私は、以前から発明を重視していただきたいと市長にお願いしています。例えば、先日福岡市の工業高校の生徒さんが作ったオートバイは、ガソリンも揮発油も要らない、今のところは時速60キロのスピードしか出ないものの、交通局からナンバーももらって運転できている。おそらく圧縮空気を利用するんだと思いますが、燃料代はゼロです。このような発明が重要だと前々から市長に申し上げているんですが、私の意見が取り入れられるかどうか分からない。私は、東小金井駅ができたのだからやっぱり発明の一つで、大発明だと思っています。発明を重視しないで、発展があるでしょうか。	以前、発明を推奨していくような取組をしたらどうかという御意見をいただきました。技術の進歩があって生活の質が向上していくということなので、まちづくりにおいても、新たな取組をどんどんしていくことは大切だと思っています。 小金井市は先ほどもご紹介しましたとおり教育機関が多いので、現在連携をしていますが、これをさらに深めていこうと、私自身が直接訪問して理事長や学長といった方々と話をさせていただくなどしています。いきなり発明とはいかないかもしれませんが、学生もしくはそういった教育機関と共に、何か新たな取組ができないかどうかということは今模索しておりますので、仰っている方向性は理解をしたうえで、新しいことを生み出すような仕掛けを関係機関と作っていきたいと思っています。
2	交流の場の提供について	「こがねいコモンズ」という、人と人をつなげるイベントがあると先ほど仰っていて、とても良いと思います。そういったイベントがあって、そういう意図がある方がたくさんいると思いますが、そういった場所をもう少し市として提供できると良いと思います。 提案を2つさせていただきます。1つ目は、自由に交流しやすい場所を用意すると良いと思います。具体的には、宮地楽器ホール、マルチパーパススペースDを開放したほうが良いと思います。新市庁舎完成後に福祉共同作業所が跡地になるので、そちらも開放して、交流しやすいような場所に転用すると良いと思います。 2つ目が、現在、市庁舎等にカフェなどはないと思いますが、もっとそういった民間の飲食店等を入れて、官と民をもう少し交ぜるような形を取ったほうが良いと思います。スピード感が違うという意見は結構聞いたことがあります。後で入れても良いので、民間を入れたほうが良いと思います。	マルチパーパススペースも含めてどのように対応できるかというような御意見をいただくところも多いので、そういった場づくり、交流できる仕掛けのようなところを、今後も考えていきたいと思いますので、ご提案として受け止めてさせていただきます。
3	民間の活用について	現在、市庁舎等にカフェのようなものはないと思いますが、もっと民間の飲食店等を入れて、人をもう少し入れるような、官と民をもう少し交ぜるような形を取ったほうが良いと思います。スピード感が違うという意見は結構聞いたことがあります。後で入れても良いので、もう少し民間を入れたほうが良いと思います。	新しい新庁舎の建設について、今後どうなるかということは今申し上げられませんが、ご提案として受け止めてさせていただきます。

4	配送の新しい仕組みづくりについて	私は4月から社会人大学院に通っており、そこで、小金井市をフィールドに地域内の配送の新しい仕組みづくりができないかということを研究しています。 小金井市に住んでいて、面白いお店や良いお店が小さいながらもたくさんあると感じていますが、同じ市内で割と家の近くにありそうではあるものの、毎日仕事しながら日常的に手に取るというのは、実は意外と難しいのではないかと考えています。高齢者の方が買いに行きづらいということもあると思いますが、お仕事をされている現役世代の方々も、帰宅ルートにお店がないとか、営業時間内に帰ってこれないとか、フードデリバリーがあっても配達料がかかって結局高額になるため日常的には使いづらい、といったところもあると思います。そういったことで、近くにあるのになかなか買いづらいという状況もあるのではないかとということが、私の研究の背景になります。 研究のテーマは、地域のインフラといった、もともとあるものを組み合わせ、新しくお届けできるとか受け取れるといった仕組みをデザインできないかなというものです。具体的には公民館とか、まさにここマロンホールもそうですし、10時まで開館している貫井北センターのような施設の組合せ、それから牛乳配達などのように、宅配ではないけれども物を届けているような仕組みといったものを組み合わせ、日常的に受け取れるような仕組みができたらいと思っています。そうすることで、地域の小さなお店の経営の支援や、住んでいる方々の利便性の向上、公共施設や地域コミュニティのにぎわいが、そこで人が集まったり立ち寄ることで生まれるのではないかと考えています。 また改めて詳しい説明をさせていただいて、大学院の研究として、ぜひ行政にもアドバイスをいただけたら大変うれしいと思っています。	仰るとおり、やはり高齢者の方にとって、地域によってなかなか近くにお店がないような立地環境もあるかとは思っています。最近「とくし丸」という移動スーパーも無くなったという話を、先日、自治会、町会の皆さんから伺いました。それはまだ確認できておりませんが、そういうことも含め、本来であれば民間事業者の方に実施していただければ有難いところではありますが、なかなかそれができてないという買物環境の課題はあると思っています。地域のもをしっかりと地域で消費していただくことを進めていくために、今仰っていただいたこと、もし何かうまく実現できるのであれば有難いですし、よろしければ研究にも、市として協力できるところは協力していきたいと思いますので、お声がけいただければと思います。
5	宮地楽器ホールを活用したにぎわいづくりについて	教育機関はたくさんあるようですが、町自体にアカデミックな雰囲気があるかという、なかなかそれが感じられないところもあります。先ほど市長が学長と話をされていると伺いましたので、今後期待できると思いますが、これから市として、どういう取組をされるのでしょうか。そういう意味では、先ほども今ある既存の施設を活用しようという話が出てきましたがやはり図書館が遠く、近所にはないという問題があります。 宮地楽器ホールは、イベントがないときには結構閑散としています。ヨーカドー前の広場とSOCOLAの間というのはポラードがあって車が通るので、なかなかあそこの行き来ができなくなっています。やはり宮地楽器ホールは財産なので、それをもっと活用していただければというふうに思います。先ほど、カフェという話が出ましたが、例えば土曜日とか日曜日といった買物客が多いときに、あそこを開放して、テーブルと椅子を置いて、カフェのサービスなどをすると、結構にぎわいが創出できるんじゃないかと思っています。 既存の施設はいろいろなところにあったり、新しいお店もぽつぽつとできているので、そういった所をどういった形で結んでいくかということが、すごく大切だと思っています。	先ほどマルチパーパススペースの話もありましたが、宮地楽器ホールに入って左側にスペースNという場所があります。貸出しをしていないときは開放している場所ですが、当初はカフェにする予定でした。それがいつの間にか計画が変わり、今の状況に至っています。様々な事情から管理規約がまだできておらず、市だけで管理しているわけではないため、スペースの使い方については制限があることが、行政側の課題と捉えていますので、なんとかしていきたいと考えています。 おっしゃるようにあそこを開放できるようになっていますので、使っていない時などに上手く出入りできるようにすれば、人の動きももっと変わってくると思いますので、いただいた御意見をしっかりと受け止め、やるべきことをやっていきたいと思っています。 それから、新しいお店ができて、それをどう結んでいくかといった話も、新しい産業振興プランに向けて検討委員会で議論していきますので、本日いただいた意見は担当に伝えたいと思います。

6	駅前の子ども向けスペースについて	駅前などに買物に行くときに、どうしても子どもがぐずってしまうことがあります。平日の昼間に駅前のほうに行くと、スターバックスなどのカフェに赤ちゃん連れのお母さんがたくさんいますが、皆さんやはり子どもを降ろせない、抱っこかベビーカーを利用するしかないという環境で、もし駅の近くに赤ちゃんが遊べるような、プレイランドなどがある施設やカフェ等があったら、にぎわいの一つになるのではないかと、そういう施設ができればいいなと思います。	特に駅前を中心に、ずっと子どもをベビーカーもしくは抱っこするしかないという環境なんだということは、私自身も子どもを育てたときに感じたことではあります。今すぐ何ができるかということはお答えはできませんが、ただそういったことで出かけるにいととなると、それは町にとってももったいない話だとは思っていますので、今日は特に「まちのにぎわいづくり」というテーマですから、そういう観点で考えて、何かできることはないかということを私も考えていきたいとは思っています。すぐに何ができるかというお約束はできませんが、逆に貴重な御意見をいただいたと思っておりしますので、しっかり担当にも伝えながら、そういう視点も常に考えながらやっていきたいと思っています。
7	長期的な提案について	長期的な提案が2点あります。東小金井事業創造センターK O-T Oの目の前が現在駐車場で、いずれは公共施設になるといいよね、という話があります。そちらを、屋根つき人工芝つきの施設にしたら、近くの高架下も盛り上がるし、K O-T Oからのお店の出店のようなものも容易になるし、良いのではないかとという提案です。 もう一つは、屋内遊び場、イトーヨーカドー内や公共施設、今後跡地になってくると思いますが、そちらに遊び場を誘致するとすれば、先ほどの0から1歳の子育ても、もしかしたら容易になるかなという提案です。	K O-T Oの目の前の駐車場が2つ並んでいるところは、北口まちづくり事業用地とあって、市が区画整理をしている中で持っている土地です。今から10年ぐらい前に、財政的な事情ですぐには整備できないかもしれない、という制限付きで整備計画を策定したものの、結果的にはすぐに整備できないということになったため、そのまま放置するよりは駐車場にして少しでも市の収入にしようということで、現在暫定的に駐車場にしています。駐車場にするに当たってお金を借りているので、少なくとも令和10年までは駐車場になります。それ以降は、あそこをどのように整備していくかということを考えなければならぬのですが、まだ具体的な動きになっておりません。 いずれにしても、あの土地については、ちょっとした施設が入りながら広場をつくるというような考え方で整備計画が策定されていました。ただ、策定してすでに10年経っていますし、周りの環境も変わっていますので、やはりこれからのニーズも踏まえて、整備計画自体を見直さないといけないという話は行政内部でもしています。 令和10年度以降どうなるかということにはなりますが、さきほど仰った小さなお子さんを遊ばせる場所がなかなか無いというお話しは、特に屋内や屋根付きといった場所の必要性について以前からご意見をいただいておりますので、それも参考にさせていただければと思います。
8	市民の参画について	今の駐車場の利用方法についてもそうですが、どのように活用しようかということを決める時の決め方は、具体的にどういうふうにされているんでしょうか。例えば、ワークショップで市民が参加しながら決めていくというやり方というのも、やはりこれからは考えていかないといけないと思いますが、そういうやり方を今までされてきたのでしょうか。 それから、コロナの時期に商品券などが配られたと思うんですが、国分寺市にある「ぶんじ」のような地域通貨と地域の発展をどういうふうに絡めていくかということと、そういった市の公共財産の土地をどのように活用していくかということも一緒にして、先ほどの商業、産業、住まい、そういったものを考えていける場というものを、市のほうから提供していただけると、小金井市民としても参加しやすいのではないかと思います。	北口まちづくり事業用地の整備計画策定に当たっては、市民参加で策定委員会を立ち上げ、2年近くかけてプランを検討してきたという経過があります。そのときには、ワークショップも開催されていまして、私も市民として参加しました。2回のワークショップを含めて、様々な意見を聞きながらプランを練り上げていくことをやりました。そうした経緯もあるので、あまりそれを反故にするのは非常に難しいところですが、ただ、先ほど申し上げたように、10年経っており、いろいろな状況も変わってきた中において、それを基にどう見直すかということや、またどこかで市民の方々と意見交換などを踏まえて行う必要があるかもしれないとは思いますが、基本的には勝手に行政が変えてしまうということにはならないと認識しております。 地域通貨については私も興味があって、いろいろと調べたり話を聞いたりしています。地域通貨以外に「まちコイン」という面白い手法があり、例えばボランティアなどの活動をすることによってインセンティブをもらい、それを何かに還元できるというような、どちらかというと地域のコミュニティーをより活性化させるための仕組みもあったりします。ただ、小金井市という狭い地域だけのものとするとうなのかを考えるとところではあります。一方で、やはり市内でお金、もしくはヒト、モノが循環するということは望ましい形なので、やりたいと思いつつ、どこまで効果があるかというところはまだ見定められてない状況ではあるものの、引き続き課題として捉えています。 それから、公共財産をどのように活用していくかというのは、小金井市として今まで

			以上にもっとやらないといけないと思っています。先ほどメタウォーターサステナブルパークこがねいという新しい資源物処理施設の説明をしましたが、あれはネーミングライツで名前をつけてもらうことで、年間500万の収入を得るというものです。もっとそういったことで、できることはないかということなどもあります。 もしくは、現在、公共財産を管理している部署が分かれています、これを1つの部署に全て集めて管理し、最大限活用していくやり方というの、今後の組織体制の中では検討はしています。ただ、今すぐにはできないので、それぞれの持っている財産を、例えばどうにかして収入に繋げることはできないかということも、各担当とも話をしながら考えてはきているところです。公共財産の活用については、引き続き考えていきたいと思います。 商業、産業、住まいを考えていく場への参加という有難いお話がありましたが、現在、市の最上位計画である基本構想のうち後期基本計画の策定に入っているところで、まさに、商業、産業、住まい、福祉、教育、全てにおける小金井市の今後のやっていくべきことを話し合っています。もしかしたらきちんと伝わっていないかもしれないですし、テーマごとの場になってしまうかもしれませんが、またよろしければ参加いただきたいと思います。どうしていくかということを示せないまま、ご意見を聞くだけというのは難しいので、そういう場の設定についても考えていきたいと思います。
9	まちのブランディングと駐輪場について	朝のニュース番組で、人口が2,926人しかないのに年間290万人の人たちが訪れる、全国で一番の道の駅として群馬県の川場田園プラザが紹介されていました。 それをみていて、小金井市にある様々な風景を寄せ集めた道の駅というふうに関連づけて理解しました。何かというと、小金井市は先ほど市長からも紹介されていたように、自然であったり文化であったり、大学であったり、都立の公園であったり、川が流れていたり、4キロ弱四方のまちの中の中心に中央線が走っていたり、非常にミクロ、マクロを見ても、いろんなものを凝縮しているまちなんです。なんです、それぞれが分断されていて、一つ一つが個として一所懸命に頑張っているという印象なんです。 東京都の中心に小金井市があって、すごくいいまちで、自然があって、教育レベルも高いという、そういうまちとしての価値を、実は市民が感じづらいまちに生きている。方針の最初にブランディング、まちの価値全体を上げていくと言われたのは、これらの価値をつなげる事業の仕組み、まちをプレゼンする仕組みを行政がやるべきことなのか、行政が委託した、今日すごくすばらしい意見をおっしゃる方もおられましたが、そういう人たちと市が連携して進めていくのか、市長の所見を伺いたいです。 もう一つは、東小金井のロータリーが整備されましたが、その北側に長らく駐輪場として使われていたものが、現在閉鎖されています。私は梶野町に住んでいますが、五日市街道沿いの方々も含め、とても不便をしています。ですので、あの場所の地下に駐輪場をつくっていただきたい。その上に公園なり先ほどの方が言われたような、子どもを遊ばせられるような場所になるといいなと思います。 東小金井のヨークフーズの隣側的小金井市の土地には、ぜひ図書館を整備してほしいです。今の本館も50年近く経っており、建て替えも議会の	私も、小金井市はどんなまちですかと聞かれたときに、一言で申し上げにくい、一方で、そんな一言では片づけられないと思うところもあり、難しいとは思っています。 ただ、先ほど産業振興プランのところでブランディングの話をしましたが、小金井市としての「まちのブランディング」も必要なのではないかと感じているところではあります。 しかし、それは行政だけで勝手に決めるものではなく、仮にそういったことをやるとした場合は、当然行政発信でそういう場を提供し、市民の皆さんにいろいろ意見を聞きながら、市民の皆さんと一緒に創り上げていくものだと思います。 小金井市を一言で言い表すことが良いかどうかも含めて、非常に多様なご意見をいただいています、いずれにしても、小金井市が良いまちなのに関わらず、ポテンシャルをうまく生かしていない、もしくはそれをうまく表現できていないというのは、もったいないと思っていますので、私自身もそういうことは感じながら、どのようにしていくかについては、深く考えさせてください。 駐輪場の件については、かねてから御意見をいただいております。地下に駐輪場を作った場合に、どれぐらいの費用が掛かるかという概算ではありますが、試算したりもしました。 もともとロータリーを作る際はかなり手を入れていますので、本来であればロータリーを作る段階で地下に駐輪場を作れば良かったと思うところではありますが、もうできてしまっているため、今すぐには回答できませんが、東小金井、特に北の地域において大きな駐輪場が無くなって不便をしているという話は多々聞いておりますので、引き続き課題として考えていきたいと思います。 図書館の整備については、同じようなご意見をたくさんいただいておりますので、受け止めさせていただきたいとは思いますが、北口まちづくり事業用地に図書館という計画はないため、仮に見直すのであれば、図書館も含めてどうするのかというところです。 一方で、現在、公共施設の在り方の検討をしています。市全体の中で公共施設がどう

		話題になっていることは私も承知しています。ぜひ東小金井が取り残されないようにしてください。	いう配置になっているか、本来どういう機能の配置が必要なのかということ、整理しています。そういうことも踏まえながら、公共施設を今後どうしていくか一つ一つ考えていくことになりますので、それを含めての検討になるかと思います。
10	図書館について	先ほど図書館の話がありましたが、人が集まってほしい公共施設や民間の施設をちょっと間借りして、シームレスな小さな図書館を設置するというのは、図書館の在り方としても一つあると思います。それで、例えば地元の企業に一棚ずつ選書してもらうとか、漫画や幼児本を置いて、子どもが利用しやすい小さな図書館などを用意するのも、図書館の在り方として一つあると思います。	図書館にも、図書館としてどうあるべきかという計画もあります。以前は移動図書館がありましたが、図書館の分室が一定程度整備できたということと、貫井北センターが整備されたことをきっかけにして、なくした経過があります。 あれもこれもというのは、なかなかできない状況ではありますが、いずれにしても図書館に対する市民の皆さんの要望というのは強いものですので、引き続き検討していきます。
11	学校給食について	学校給食の材料ですが、どのように調達されているのかということ、小金井市は都市農地が結構多いと思うんですが、その辺で作る食材を、どういうふうに学校給食に導入されているのかということを知りたいと思っていますので、お願いします。	自校調理方式といって、すべての市立小・中学校の校内に調理室があり、出来たてのものが食べられるという給食体制になっています。 調理そのものは委託していますが、各学校の栄養士が献立を考え、それに合わせた食材を地域の事業者さんと連携を取って、すべてではありませんが、そこを中心として、発注しています。 地場産農家の野菜を活用するという方向で進めており、年度によって違いますが、大体使われている野菜の１２％から１５％ぐらいで、市内農家の農作物を使わせていただいています。これをもっと延ばせないかというところではありますが、まとめた量のある程度品質を保った上で届けられないといけない、というところの難しさがあるという話は聞いています。 学校の場合、何かあった場合に問題も大きくなったりすることもありますから、かなり気を遣うというのも聞いています。 あとは生産能力の問題で、やはり全ての食材を小金井市で生産しているかというところでもない、そういう品目によっても違うというような状況です。
12	ファーマーズマーケットについて	ＪＡむさしのファーマーズマーケットを開催されているかと思いますが、ぜひそのほかでも、農家さんの野菜だけではなくて、地域の店などを交えたようなファーマーズマーケットを、月１とか、何か月に１回といった形で開催していただけたら、市民の方もより地元の野菜のを知る機会も増えますし、にぎわいというのもつくれるんじゃないかと思います。	ファーマーズマーケットはＪＡが実施しているので、そういった御意見があったということ、担当課を通じてＪＡ伝えたいと思います。 現在、おそらくキッチンカーのようなものを時々出したりしているとは思いますが、ただそれが地域の店ではなかったりします。産業祭りや各種お祭りなどでは、地域の店がブースを出してその場で販売するということをやっていたりもしますので、日頃からそういったイベントと同じような機会があれば良いというご提案だと思いますので、そういったことも、提案していきたいと思います。